

SR（社会的責任）に関する国際規格 ISO 26000 の FDIS（国際規格最終原案）としての公表が承認される

Social Responsibility（社会的責任、以下 SR）に関する手引を示す ISO 26000 が、2010 年末までに国際規格として発行される見通しとなった。

ISO メンバー99 か国及び 42 の公共・民間機関からの専門家及びオブザーバーを含むマルチステークホルダーから成る ISO/WG SR（ISO SR 作業グループ）は、2010 年 5 月 17 日～21 日にデンマークのコペンハーゲンにおいて開催された第 8 回総会で、ISO 26000 の原案を FDIS（国際規格最終原案）とすることを承認した。



コペンハーゲン総会で撮影された ISO WG SR リーダーシップチーム・メンバー（左から右へ）：Kristina Sandberg 事務局、Jorge E.R. Cajazeira 議長、Staffan Söderberg 副議長、Eduardo Campos de São Thiago 副事務局、Sophie Clivio ISO 中央事務局、技術プログラム・マネージャー（撮影：Jorge E.R. Cajazeira）

2,482 のコメントが受理され、コペンハーゲン会議で達した合意事項を盛り込むため、文書は現在、編集段階にある。ISO 26000 は、8 月～9 月の 2 か月間、ISO メンバー国による FDIS 投票に付され、その後、11 月までに IS（国際規格）として発行される見通しである。

ISO/WG SR は、ISO メンバーのブラジル規格協会 (ABNT) 及びスウェーデン規格協会 (SIS) の合同のリーダーシップにより運営されている。WG 議長の Jorge E.R. Cajazeira は、コペンハーゲン会議が成功裏に閉会した後、次のコメントを発表した。「ISO 26000 は、公共・民間機関の両方に社会が現在期待している社会的責任に基づいた方法で運営するための新しいパラダイムを提供するだろう。ISO 26000 は、それらの組織が、最小の社会的コストと最小の環境への悪影響で、長期的経済利益を達成することを助けるだろう。」

副議長の Staffan Söderberg はこう明言した。「100 ページの文書が最終的に合意を得て、400 名の専門家とオブザーバーが立ち上がり、拍手をした時は、本当に心温まる瞬間でした。ISO/WG SR はすばらしい結果を出しました。そして、この価値あるガイダンス規格を市場とすべての組織に引き渡す時が来ています。」

ISO 事務局長 Rob Steele は、この会議の開会式でスピーチを行い、2005 年の第 1 回会議以来 8 回の会議と 25,000 件以上のコメントの処理等に対する ISO/WG SR の努力に敬意を表した。

事務局長は、開発途上国による重要な意見の提供を含む、ISO 26000 の開発のために提供された広範なステークホルダーの意見の重要性を強調して、次のように述べた。「結果として ISO 26000 の開発へとつながる勧告に至った主要な議論の一つに、このような幅広いテーマはできるだけ多方面からの参加があった方が利益を生むだろう、そして ISO 規格開発プロセスを利用することが参加を最大化するだろう、というものがありました。開発途上国がこの意見に賛同した主なグループの一つでしたが、この主張には全員が共鳴しました。」

事務局長はさらに、ISO 26000 はガイダンス規格であり、第三者認証を意図した規格ではないので、ISO はこの点が尊重されるよう注意深く見守る、と強調した。ISO 事務局長は、ISO 26000 に対する次のような市場の期待を繰り返した。

- SR 定義及び SR 原則に関するグローバルな合意
- SR の中核課題に関するグローバルな合意
- SR をいかにして組織全体に統合すべきかに関するガイダンス

この会議は、ISO メンバーのデンマーク (デンマーク規格協会、デンマーク経済商務省) により主催され、経済商務大臣 Brian Mikkelsen は、「我々は今日、社会的責任の意義と実践を広く世界的に支える仕組みを実現しました。これは大きな前進です。世界中の企業及び組織は、互いに社会的責任に取り組むための出発点に立つことができるでしょう。」とコメントした。

- ISO 26000 及び社会的責任に関する ISO 作業部会の詳細については、専用の Web サイト www.iso.org/sr を参照してください。この Web サイトには、ISO の SR イニシアティブの背景について説明した文書、作業の進捗状況及び実施方法に関する文書及びプレスリリース、WG SR のメンバーシップ及び構成、ISO 26000 の開発に参加する方法、ニュースレター、開発スケジュール、FAQ、問い合わせ先などの情報が掲載されています。これらの情報の多くは、複数の言語で入手することができます。
- DIS を含む作業文書は、www.iso.org/wgsr で入手することができます。